

2010岩手ヤングレフェリー育成講習会要項

岩手県ハンドボール協会審判部

1. 趣 旨

将来の国際ハンドボール連盟（以下、IHF）レフェリーを保證できる人材を育成しようとする「2005年IHFコーチ・チーフレフェリーシンポジウム（6.21-26：タイバンコク）」での提唱を受けて、日本協会としても若手レフェリーの育成を2006年度重点施策としたことから、全国に先駆けて岩手では2006年度から実施している。

若手レフェリーの発掘養成に努めて「国際レフェリー」を育成することを指向しながら、レフェリーとして関わってみようとする興味関心のある人を幅広く受け入れて育成することにより、ハンドボールの振興に資するものである。



2. 方 策

(1) ヤングレフェリー（以下、YR）育成担当： 主任 副主任

【高体連】 中館 豊（盛岡第一高校）	【中体連】 柏館 秀一（矢巾町立矢巾中学校）
多田和生（水沢工業高校）	上飯坂徹（盛岡市立北陵中学校）
山口 淳（盛岡第三高校）	西郷 晃（盛岡市立下小路中学校）
川村俊彦（花巻北高校）	

YR育成担当（公認A級審判員）は講習会の企画運営と指導養成にあたる。

(2) 募集方法： 14歳～16歳コース 17～18歳コース

中・高等学校ハンドボール専門部並びに地域クラブのチーム責任者へ案内文書と申込書を配布し、希望者または推薦者を募集する。

岩手県協会公認または個人のウェブサイト、新聞各社、市町村広報誌、テレビ・ラジオ等のマスコミによる広報を通じて、公募する。

【受付期間】 平成22年4月1日（木）～平成22年6月30日（水）

【申込先】 所定の申込書により、下記宛てに郵送かFAXで送る。

〒020-8515 盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内 中館 豊 宛
TEL 019-623-4491 FAX 019-654-4227

問い合わせ及び事務手続きには、上記の他に

中体連審判長 上飯坂 徹（盛岡市立北陵中学校）があたる。

(3) 育成方法：

申込者に対して、直接或いはチーム責任者を通じて、競技規則入門書と育成プログラムを配布する。YR育成プログラムに基づいて、YR育成担当者が段階的にスキルアップを図ることができるように支援する。

(4) 経費等：

交通費：原則個人負担

講習会参加料：3,000円

「D級審判員」を申請する場合：

(内訳) 審査料 1,000円、認定料 2,000円、審判員用品代 合計 10,500円 (1)

1 審判手帳 735円、IH-レッドカード 525円、コイン 1,050円、
審判ワッペン 1,365円、ワエリバッグ 3,150円、送料等

2 次年度から、年間登録料：2,000円が必要

「平成19年度版競技規則」を購入する場合：1,365円（消費税含む）
公式大会で審判を担当する場合には弁当を支給する。

3. Y R 育成プログラム

14歳～16歳コース（岩手県協会審判部）

- (1) 岩手県協会審判部で開催する下記講習会（予定）に6回（1回1時間相当）参加し、ルール・実技・走法などの技術と体力養成の指導を受ける。

講習会受講者の中から、優秀者には“日本協会仮公認ワッペン”を与える。

県民体育大会時講習：平成22年 7月 4日（日）花巻市総合体育館

県中学校総体時講習：平成22年 7月19日（月）盛岡市アイスアリーナ

県中学校新人大会時講習：平成22年10月17日（日）花巻市総合体育館

県高校新人大会時講習：平成22年11月 7日（日）花巻市総合体育館

第35回日本リーグ時講習：平成22年12月11日（土）岩手県営体育館

県総合選手権大会時講習：平成22年12月19日（日）花巻市総合体育館

県中学校1年生大会時講習：平成23年 1月 7日（金）滝沢総合体育館

その他、日頃から個人的にルールの理解を深めながら、身近なハンドボールの活動が場所（部活動、地域クラブ等）において、顧問や審判有資格者と共に実践練習を積み、資質の向上に努めること。

- (2) Y R 育成担当の指導の下、県小・中学校大会、又はそれと同等の大会を吹笛する。
- (3) 優秀者をナショナル・トレーニング・システム（NTS）ブロックトレーニング時に開催する“Y R コース”に参加させ、「実技研修とルールテスト」を実施する。
- (4) 上記優秀者は、県中学校・高校生大会、東北ブロック小学生・中学生大会に参加させる。

17歳～18歳コース（東北ブロック協会審判部）

- (1) ブロック協会の責任においてY R 育成担当者を配置し、養成にあたる。
- (2) 対象者は、希望者或いは推薦者、全てを受け入れる。
- (3) 6時間以上の講習会を開催し、ルール・実技・戦術・英語の指導を行う。
- (4) 講習会受講者の中から、優秀者に“日本協会公認審判員C級以上”を与える。
- (5) Y R ブロック育成担当の指導の下、各都道府県及びブロック中・高等学校、又はそれと同等の大会を吹笛させる（必要に応じて、Y R 育成担当者と吹笛する）。
- (6) NTS センタートレーニング時に審査指導専門委員を派遣して“Y R コース”を開催し、各ブロック協会から推薦された優秀者を参加させ、最新のハンドボール技術戦術の理解を深めるとともに、「審判実技とルールテスト（英語）」を実施する。
- (7) 優秀者には、日本協会が派遣するトップレフェリーと一緒に各ブロック学生秋季リーグ（2部以下）を吹笛させ、助言・指導を受ける。

19歳～21歳コース（日本協会審判部）

- (1) 従来の“JHAレフェリーコース”を、“国際レフェリー養成コース”と改めて、原則として“各ブロック協会の推薦を受けた者”を対象とする。
- (2) 対象者の年齢・力量に応じて、“全国高校総合体育大会、全国高校選抜大会、全国中学校総合体育大会、春の全国選手権大会、JOCジュニアオリンピックカップ、全国小学生大会”のいずれかにノミネートする。
- (3) 上記2項を参考にして、審査指導委員会は、“日本協会公認審判員B級以上”を与える。
- (4) 優秀者には、前述大会の決勝戦を吹笛させる。更に“AHF開催のコースに派遣”すると共に、“大陸レフェリー”に推薦し、“ユース・ジュニア・学生選手権大会”参加の道を拓く。
- (5) 毎年、22才までの“エリートレフェリーを1ペア以上育成すること”を目標とする。

24歳以上（日本協会、アジア連盟）

- (1) 大陸ユース・ジュニア大会のレフェリーは、28才以下とする。
- (2) ベストレフェリーは、“将来の大陸レフェリー”のバッジを受け取る。